

論文

生成 AI の使用実態と日本語文生成に対する理想と現状の ギャップ調査

——大阪観光大学別科の日本語学習者の場合——

A Survey on the current state of use of generative AI and the gap between the ideal and the current state of Japanese sentence generation : In the case of Japanese language learners at Institute of Japanese Language, Osaka University of Tourism.

島田良幸* 丸山真輝*

SHIMADA Yoshiyuki, MARUYAMA Naoki

This study examines generative AI use among international students enrolled in a university-affiliated Japanese language program and explores the gap between their awareness of producing Japanese texts on their own and their actual use of AI tools. A questionnaire survey was conducted to investigate students' usage patterns and attitudes toward generative AI. The results indicate that many students hold positive attitudes toward AI use but are reluctant to rely on it excessively. In addition, the findings suggest that students seek both practical instruction and oral support from teachers, indicating that human support remains important in language learning. The survey also revealed that students perceive greater difficulty in writing Japanese texts than in producing spoken Japanese. This study suggests the need to strengthen support systems to improve students' ability to produce Japanese texts.

キーワード：生成 AI (Generation AI)、利用状況(Usage patterns)、ギャップ(gap : The discrepancy between what international students of Japanese want to communicate and their actual speech behavior)、アンケート調査(questionnaire survey)、日本語文生成(Japanese text production)、心理的矛盾(Psychological contradiction)、サポート体制(Support system)

1. はじめに

留学生を扱う日本語教育機関では、日々日本語を学ぶ留学生と向き合っているが、近年生成 AI が身近な存在となり、教育の場面での活用について議論され始めているという話をよく耳にすることがある。また、日本語教育機関において、生成 AI とどのように向き合うべきかが議論される一方で、現状として、大阪観光大学別科の留学生が日本語を生成する際に生成 AI を使用しているのかについて、学校側として調査をした研究は管見の限りではあるが見当たらない。さらに、留学生たちが使用している場合、どのような考えや目的をもって使用しているのか。

本研究では、本大学の別科に在籍する留学生の生成 AI の使用に関する現状と、留学生が自力で日本語の文章を生成しようという意識と実際の使用状況との間に生じるギャップについて考察することを目的とする。この点については、日本語を学ぶ留学生は、話したい気持ちを持ちながらも、話し方や表現方法に関する知識不足から、感情や意図を正確に伝えられないことに対する不安や心理的な障壁があり、話すことに躊躇してしまっているのではないかという問題意識に基づいて考察する。

本研究における「ギャップ」の定義は、「自由に日本語で発話したいという留学生の理想と発話の現状との間に生じる乖離」とする。

2. 先行研究

仙台大学 AI 教育研究チーム(2024)の先行研究では、全国約 8,769 名の高校生・大学生・大学院生と高校・大

*大阪観光大学別科/日本語教育学

学・大学院に在職している教員を対象に調査を行い、生成 AI を使用する際、学生たちはどのような行為が不正行為に該当するかの認識、さらに適切な引用方法に関する知識が不十分であると報告されている。また、生成 AI の利用を肯定的にとらえていることから、今後さらに生成 AI の利用が広がっていくことが考えられるとしている。大森(2024)の先行研究では、全国の大学の学士課程学生を対象として、インターネット調査サービスを活用し、回答数が 4000 人となるまで回答を受け、調査を行い、ChatGPT の利用経験がある日本人の大学生の圧倒的多数は、ChatGPT の利用を自身の思考力等の向上に役立つと極めて肯定的に評価していることが報告されている。さらに、辻ら (2016)の先行研究では、4 名の論文執筆者たちが教鞭をとっている専門学校や大学に在籍している留学生で、日本語の中級・上級レベルの学生 50 名を対象に記述形式の設問が多いアンケートを実施し、留学生がコミュニケーションで摩擦を起こしやすい場面は、能動的場面や受動的場面等どの場面においても、コミュニケーションに困難を感じている可能性があることが報告されている。特に、ネガティブな感情を持ちにくい場面である、「褒められている」場面に摩擦が起きていると感じている学習者の数が相対的に多めで、「断るとき」「断られるとき」も同様に多く、次いで「注意されるとき」が多いという回答結果が出ている。

3. 調査について

(1) 調査期間

2025 年 8 月 26 日から 9 月 5 日までの期間に調査を行った。

(2) 調査方法

大阪観光大学別科内の留学生を対象に Google フォームを使用し、学生に向けてアンケート調査を行った。無記名式で回答を求めた。

(3) 調査対象者

大阪観光大学別科の留学生 179 名(2025 年 11 月 4 日時点)のうち 78 名から回答を得た。アンケート調査に協力してくれた留学生の国別の人数は、中国出身の学習者 42 名、ネパール出身の学習者 27 名、ミャンマー出身の学習者 6 名、韓国出身の学習者 3 名であった。

(4) 調査内容

本研究のアンケートの全質問項目は 29 問であり、そのうち一部の質問内容は、先行研究である前掲の三文献における質問項目及び選択項目を参考に作成した。これは、大阪観光大学別科の留学生が生成 AI を使用する際、使用者に倫理観や日本語の文章を生成したいという理想があっても、実際に日本語の語彙や文章の生成に対してどのような感情を抱いているのかを把握するためである。

他方、本研究では、日本語を生成することに難しさを感じている場面において、自力で日本語の文章を生成したいと思う程度やその理由、さらに自力で日本語文を生成できるようになるために周りからどのようなサポートが必要と考えているのか、またそのサポートの緊急性がどの程度高いと認識しているのかを問う項目を新たに加え、調査することとした。

これまでの研究では、日本の大学生における生成 AI の使用状況に関する先行研究が存在する一方で、日本語教育機関に在籍する留学生を対象とした研究は見当たらない。さらに、生成 AI を日常の学習やレポート・課題作成に活用している現状について調査した先行研究はあるものの、留学生自身が自力で日本語の文章を生成する際に感じる意識のギャップについては十分に明らかになっていない。特に、そのようなギャップを認識している留学生に対し、日本語での文章生成能力を向上させるために必要な支援策について調査することは、新規性のある研究テーマであると考えられる。

29 問あるアンケートの質問項目の内容を生成 AI の使用場面ごとに分けるとすれば、質問 17～質問 21 は、学

校内で課された課題や提出物作成場面での使用に関する質問であり、質問 22～質問 26 は、日常生活における学習場面での使用に関連する質問で、その他の質問はあらゆる使用場面に関する質問項目となっている。さらに質問を項目ごとに内容別に分類するとすれば、質問 2～質問 5 については、「回答者の属性情報に関する質問」、質問 6～質問 12 については、「生成 AI の使用状況に関する質問」（使用頻度、目的、ツールの種類などを把握するための質問項目）、質問 13～質問 15 については、「日本語で文章を生成することへの意欲や態度に関する質問」（AI に頼らずに自分で書きたいという気持ちやその理由を探る質問項目）、質問 16～質問 21 については、「理想と使用の現実とのギャップを探るための質問」、質問 22～質問 26 については「日常的な学習において AI を使用する理由と、日本語の文章生成に対する理想との間にあるギャップを探るための質問」、質問 27～質問 29 については、「学生にとって必要な支援とは何かを知るための質問」の 6 つの質問内容に分類できる。本研究の調査をするにあたり、Google フォームで各国語訳版のアンケートを使用し、大阪観光大学別科の留学生を対象に調査を行った。質問 1 は、アンケートの回答に同意するかを尋ねる質問であるため、質問 2 以降を以下で示した。

表-1 「生成 AI の使用状況及び日本語文生成に関するアンケート」の調査における質問 2～11 の項目

質問事項		選択肢
問 2	あなたのクラスを教えてください。	・ A1 クラス ・ B1 クラス ・ C1 クラス ・ C2 クラス ・ D1 クラス ・ D2 クラス ・ D3 クラス ・ D4 クラス ・ D5 クラス ・ E1 クラス
問 3	あなたの母語は何ですか。	・ 中国語 ・ ネパール語 ・ 韓国語 ・ ミャンマー語
問 4	あなたの日本語学習歴はどのくらいですか。	・ 3 ヶ月 ・ 6 ヶ月 ・ 1 年 ・ 1 年半以上
問 5	現在の日本語レベルはどれくらいですか。 自己評価してください。	・ N1 レベル ・ N2 レベル ・ N3 レベル ・ N4 レベル ・ N5 レベル
問 6	あなたは、生成 AI（例 ChatGPT、DeepSeek など）を利用したことがありますか。	・ はい ・ いいえ
問 7	生成 AI をどのくらいの頻度で利用していますか。	・ ほぼ毎日 ・ 週に数回 ・ 月に数回 ・ ほとんど使わない
問 8	生成 AI を利用していると回答された学生に聞きます。あなたが主に利用している生成 AI はどれですか。	・ ChatGPT ・ Microsoft Copilot ・ Gemini ・ Claude ・ DeepSeek ・ その他の生成 AI
問 9	生成 AI を利用していると答えた人は、生成 AI を用途ごとに使い分けていますか。	・ はい ・ いいえ
問 10	あなたが いつも利用している生成 AI について聞きます。生成 AI を利用する際は、特に日本語のどの技能を補うために利用していますか。（複数ある場合は複数答えて下さい）	・ 読解 ・ 会話 ・ ライティング(文章作成) ・ その他の技能を補う ・ 聴解
問 11	あなたは主にどのような目的で生成 AI を利用しますか？（複数ある場合は複数答えて下さい）	・ 日本語の作文補助 ・ 日本語の文法チェック ・ アイデア出し ・ 日本語の文章の要約 ・ 課題や作文、その他の提出物の作成 ・ 翻訳(日本語⇄母国語)のため ・ 日本語で書かれた文章の大意を掴むため ・ その他の作業で利用するため

表-2「生成 AI の使用状況及び日本語文生成に関するアンケート」の調査における質問 12～19 の項目

問 12	先ほど、生成 AI を利用する主な目的について答えてもらいました。その作業において、何%ぐらい生成 AI に頼っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0～39% (生成 AI にはほとんど頼っていない) ・ 40～59% ・ 60～79% ・ 80～89% ・ 90～100% (生成 AI に作業の大部分を頼っている)
問 13	日本語の文章を生成しようという意欲があっても、あなたが日本語の難しさを感じている場面はどんな場面ですか。 (複数ある場合は複数答えて下さい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語での文章作成の場面 ・ 会話で注意する場面 (日本語で注意する時/注意される時) ・ 会話で依頼する場面 (日本語で依頼する時/依頼される時) ・ 会話で断る場面 (日本語で断る時/断られる時) ・ 会話であやまる場面 (日本語で謝る時/謝られる時) ・ 会話で勧誘する場面(日本語で勧誘する時/勧誘される時) ・ それ以外の会話場面
問 14	先ほど、日本語の文章生成の意欲があっても、日本語の難しさを感じている場面について答えてもらいました。あなたは、日本語の文章生成に意欲的な場面において、できるだけ自分の力で日本語の文章を生成したいと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強くそう思う ・ ある程度そう思う ・ あまりそう思わない ・ まったくそう思わない
問 15	なぜそのような場面で、自力で生成したい(または生成したくない)と感じるのですか。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表現力を高めたいから ・ 書くことで上達したいから ・ 自信がなくて書きたくないから ・ 時間や手間がかかると感じるから ・ 他人に書いてもらった方が楽だから ・ 書きたくない理由が特にないから ・ 書きたいけれど、難しいと感じるから ・ 日本語を書くことに興味がある(または"ない") から
問 16	あなたはこれまで生成 AI が出力した内容を、課題や作文、その他の提出物にコピーして提出したことはありますか。(母国の学校のときや日本の学校での経験を考えて答えてください)	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい、何度もある ・ はい、一度だけある ・ いいえ、一度もない ・ したことはあるが、頻度は少ない ・ 普段から使っているが、特に意識して使ったことがない
問 17	生成 AI が出力した内容を、課題や作文、その他の提出物にコピーして提出したことについて、質問を続けます。課題等に生成 AI で出力した内容をコピーするとき、コピーした内容は出力した全内容の何%ぐらいに当たりますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100% ・ 80～99% ・ 60～79% ・ 40～59% ・ 0～39%
問 18	先ほどの質問の続きです。生成 AI を使わなかった場合と比べて、生成 AI を使用することで作成した課題や作文、その他の提出物の出来映えは良くなったと感じますか。最も当てはまるものを 1 つだけお選びください。	<ul style="list-style-type: none"> ・ とても良くなったと感じる ・ やや良くなったと感じる ・ 変わらないと感じる ・ あまり良くなったと感じない ・ 全く良くなったと感じない ・ 生成 AI が出力した内容をコピーしたことがない
問 19	課題や作文、その他の提出物の作成に生成 AI を利用することは、あなたの文章力の向上に良い影響を与えますか。それとも、悪い影響を与えますか。最も当てはまるものを 1 つだけお選びください。	<ul style="list-style-type: none"> ・ とても良い影響を与えると思う ・ やや良い影響を与えると思う ・ やや悪い影響を与えると思う ・ 何も影響を与えないと思う/全く影響を与えないと思う ・ 影響のことはわからない/判断できない

表-3「生成 AI の使用状況及び日本語文生成に関するアンケート」の調査における質問 20～29 の項目

問 20	課題や作文、その他の提出物の作成に生成 AI を利用することは、あなたの考える力の向上に良い影響を与えたいと思いますか。それとも、悪い影響を及ぼすと思いますか。最も当てはまるものを 1 つだけお選びください。	<ul style="list-style-type: none"> ・とても良い影響を与えたいと思う ・やや良い影響を与えたいと思う ・何も影響はないと思う/影響はないと思う ・やや悪い影響を与えたいと思う ・全く悪い影響を与えたいと思う
問 21	あなたは生成 AI を利用した際、どのような行為が不正行為に当たるか、自分自身で判断できますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、判断できる ・いいえ、判断できない ・判断できるが、自信がない ・状況によって判断が変わる ・判断できるかわからない
問 22	あなたは、日常的な学習（課題や作文、その他の提出物の作成は含まない）のために生成 AI を利用したことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、頻繁に使っている ・はい、時々使っている ・いいえ、使ったことはない ・使ったことあるが、あまり頻繁ではない ・普段から使っているが、意識して使ったことはない
問 23	日常生活での学習において、生成 AI を利用することは、知識を増やしたり、学びを深めたりするうえで良いことだと思いますか。それとも、悪いことだと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・とても良いことだと思う ・やや良いことだと思う ・どちらとも言えない ・やや悪いことだと思う ・全く良くないことだと思う
問 24	日常生活での学習において、自分の日本語能力を高めるために、日本語の文章を自力で生成することは重要だと思いますか	<ul style="list-style-type: none"> ・とても重要 ・ある程度重要 ・あまり重要ではない ・全く重要ではない
問 25	日常生活での学習において、生成 AI を使うとき、どのような気持ちになりますか。(複数ある場合は複数答えて下さい)	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的だと思う ・不安を感じる ・罪悪感を感じる ・特に問題ないと思う ・その他
問 26	日常生活での学習において、日本語の文章を自力で生成したいと思っていても、生成 AI を使ってしまうことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・よくある ・時々ある ・ほとんどない ・全くない
問 27	あなたが「自分の力で日本語文を作りたい」と思うとき、周りからどのようなサポートがあればやる気が出ますか (複数ある場合は複数答えて下さい)	<ul style="list-style-type: none"> ・周りからの具体的なアドバイスやフィードバック ・小さな成功体験を積める課題や練習 ・友達や先生と一緒に取り組める環境やグループ活動 ・文章を書くことの価値や意義についての説明や励まし ・書き方の例やテンプレートの提供 ・的確な表現を生成 AI で上手く導き出すための方法の提供 ・サポートが受けられる適切な時間や場所 (相談や指導を受ける場) の確保 ・報酬(お金以外のもの)や褒め言葉、サポートを通じて達成感を感じられる仕組み ・特に周りからのサポートは必要ではない
問 28	あなたはそのサポートをすぐにでも必要だと感じていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐにでもサポートが必要だと感じている ・かなり早い段階でサポートが必要だと感じている ・あまり緊急性はないが、必要だと感じている ・特に緊急性はないが、サポートがあれば受けたいと感じている ・サポートがなくても、特に問題はない
問 29	サポートはどのくらいの頻度で必要だと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日 ・週に数回 ・月に数回 ・月に 1 回 ・半年に数回 ・半年に 1 回 ・特に必要ない

4. アンケートの結果について

アンケート実施の結果、アンケートに回答した大阪観光大学別科の留学生は 78 名であった (有効回答率 43.5%)。しかし、質問 3「あなたの母語は何ですか。」において「中国語」に翻訳されたアンケートに答えている学生のうち、1 名はミャンマー語を選択していた。一方、「ネパール語」に翻訳されたアンケートに答えている学生のうち、1 名は中国語を選択していた。これは、各国語に翻訳されたアンケートの URL に入って回答している時点で前者は中国出身者、後者はネパール語出身者であって、母語選択の回答は誤記と考えられるため、全アンケート回答者のうち、中国出身者は 42 名、ネパール出身者は 27 名とする。よって、本研究のアンケート調査に回答した学生を国別でみると、中国出身者 42 名、ネパール出身者 27 名、ミャンマー出身者 6 名、韓国出身者 3 名である。そして、アンケートを取った大阪観光大学別科の留学生のアンケート結果を、学生の使用の現状と学生の日本語発話の理想を探るため質問項目の内容ごとに以下の(1)~(5)の質問項目群に分けることにした。なお、少人数出身国であるミャンマー及び韓国出身の学生については、対象者が限られている。そのため、少数のデータに基づく統計的考察から、当該出身国全体の傾向として結論づけてしまうことのないよう、データの取り扱いは十分配慮する必要がある。以下に調査結果を示す。

(1) 「生成 AI の使用状況に関する質問(質問 6~質問 12)」に対する回答結果

下記の表 4「質問 6・7・8 における、生成 AI を利用していないと回答した学生のアンケート結果表」において、特に、質問内容が生成 AI の使用状況を問うている質問 6~質問 12 に対する回答結果に注目し、その内容を確認していく。

まず、関連する質問 6「あなたは、生成 AI (例: ChatGPT、DeepSeek 等) を利用したことがありますか。」と言う質問に、「はい」は 60 名、「いいえ」は 18 名であった。つぎに、関連する質問 7「生成 AI をどのくらいの頻度で利用していますか。」と言う質問に、「ほとんど使わない」は 31 名、「月に数回」は 20 名、「週に数回」は 17 名、「ほぼ毎日」は 10 名であった。そして、関連する質問 8「生成 AI を利用していると回答された学生に聞きます。あなたが主に利用している生成 AI はどれですか。」と言う質問に、「ChatGPT」は 44 名、「その他の生成 AI」は 19 名、「DeepSeek」は 15 名であった。しかし、質問 6 で「生成 AI を利用したことがあるか」に「いいえ」と答えた人は 18 名であった。また、この質問 7 に「ほとんど使わない」と答えたのは 31 名であった。さらに、質問 8 の「主に利用している生成 AI」の回答者を見たとき、質問 6 で「いいえ」を選んだ 18 名と質問 7 で「ほとんど使わない」を選んだ 31 名のうち、「ChatGPT」を 3 名、「DeepSeek」を 2 名、「その他の生成 AI」を合計 20 名が選んでおり、矛盾した選択肢を選んでいることがわかった。これは、質問 8 の選択肢に「使ったことがない」が入っていないことが原因ではないかと考えられる。

表-4 質問 6・7・8 における、生成 AI を利用していないと回答した学生のアンケート結果表

出身	質問 6	質問 7	質問 8	出身	質問 6	質問 7	質問 8
中国出身	いいえ	ほとんど使わない	DeepSeek	ネパール出身	はい	ほとんど使わない	ChatGPT
	はい	ほとんど使わない	DeepSeek		いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI
	いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI		いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI
	いいえ	月に数回	DeepSeek		いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI
	いいえ	週に数回	ChatGPT		いいえ	ほぼ毎日	その他の生成 AI
	はい	ほとんど使わない	DeepSeek		いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI
	はい	ほとんど使わない	その他の生成 AI		いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI
	はい	ほとんど使わない	DeepSeek		はい	ほとんど使わない	ChatGPT
	はい	ほとんど使わない	その他の生成 AI		いいえ	月に数回	ChatGPT
	いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI		はい	ほとんど使わない	ChatGPT

	はい	ほとんど使わない	ChatGPT	ミャンマー出身	はい	ほとんど使わない	ChatGPT
	はい	ほとんど使わない	その他の生成 AI		はい	ほとんど使わない	ChatGPT
	いいえ	ほぼ毎日	その他の生成 AI		はい	ほとんど使わない	ChatGPT
	はい	ほとんど使わない	その他の生成 AI		はい	ほとんど使わない	ChatGPT
	いいえ	ほとんど使わない	ChatGPT		はい	ほとんど使わない	ChatGPT
	いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI		はい	ほとんど使わない	ChatGPT
	いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI		韓国出身	はい	ほとんど使わない
	いいえ	ほとんど使わない	その他の生成 AI	いいえ		ほとんど使わない	その他の生成 AI

つぎに、生成 AI を使用する際の用途について、アンケートの回答結果を見ていく。関連する質問 9「生成 AI を利用していると答えた人は、生成 AI を用途ごとに使い分けていますか。」という質問に対して、「はい」と答えた学生は 42 名、「いいえ」と答えた学生は 36 名であり、回答者数が拮抗していた。さらに、関連する質問 10「あなたがいつも利用している生成 AI について聞きます。生成 AI を利用する際は、特に日本語のどの技能を補うために利用していますか。(複数ある場合は複数答えて下さい)」という質問に対して、「読解」と答えたのが、複数回答の合計は 128 件で、そのうち 36 件と、最も多い回答件数であった。次いで「会話」と答えたのが 25 件、「聴解」と答えたのが 20 件であった。ただ、この質問 10 については、下記の表 5「質問 10 における出身国別の回答者のアンケート結果」でみると、中国出身者とネパール出身者は 4 つの技能及びその他の技能を補うために、その他の出身国の学生よりもバランスよく選択していた。この質問 9 と質問 10 の結果から各選択肢の回答者の件数を見ると、本研究の調査対象者のうち、中国出身者及びネパール出身者において、用途ごとに使い分ける傾向が示唆された。

表-5 質問 10 における出身国別の回答者のアンケート結果

問 10	質問項目	あなたがいつも利用している生成 AI について聞きます。生成 AI を利用する際は、特に日本語のどの技能を補うために利用していますか。(複数ある場合は複数答えて下さい)
	中国出身者	その他の技術を補う(23 名) 文章作成(21 名) 読解(18 名) 会話(13 名) 聴解(11 名)
	ネパール出身者	読解(17 名) 会話(11 名) 聴解(9 名) その他の技術を補う(8 名) 文章作成(8 名)
	ミャンマー出身者	文章作成(5 名) 読解(1 名)
	韓国出身者	その他の技術を補う(2 名) 会話(1 名)

表-6 質問 2～質問 9 における全出身国者のアンケート結果

問 2	質問項目	あなたのクラスを教えてください。
		A1 クラス(1 名) B1 クラス(13 名) C1 クラス(6 名) C2 クラス(11 名) D1 クラス(9 名) D2 クラス(3 名) D3 クラス(1 名) D4 クラス(16 名) D5 クラス(7 名) E1 クラス(11 名)
問 3	質問項目	あなたの母語は何ですか。
		中国語(42 名) ネパール語(27 名) 韓国語(3 名) ミャンマー語(6 名)
問 4	質問項目	あなたの日本語学習歴はどのくらいですか。
		3 ヶ月(7 名) 6 ヶ月(19 名) 1 年(22 名) 1 年半以上(32 名)
	質問項目	現在の日本語レベルはどれくらいですか。自己評価してください。

問 5	N1 レベル(1 名) N2 レベル(16 名) N3 レベル(27 名) N4 レベル(18 名) N5 レベル(16 名)	
問 6	質問項目	あなたは、生成 AI (例: ChatGPT、DeepSeek など) を利用したことがありますか。
		はい(60 名) いいえ(18 名)
問 7	質問項目	生成 AI をどのくらいの頻度で利用していますか。
		ほぼ毎日(10 名) 週に数回(17 名) 月に数回(20 名) ほとんど使わない(31 名)
問 8	質問項目	生成 AI を利用していると回答された学生に聞きます。あなたが主に利用している生成 AI はどれですか。
		ChatGPT(44 名) その他の生成 AI(19 名) DeepSeek(15 名)
問 9	質問項目	生成 AI を利用していると答えた人は、生成 AI を用途ごとに使い分けていますか。
		はい(42 名) いいえ(36 名)

最後に、関連する質問 12「生成 AI 使用の主要目的の作業において、作業の割合の何割を頼っているか」という質問の結果をみると、「0～39%」にとどまっている学生が一番多く、合計で 34 名いた。また、主要目的の作業の 40%以上を生成 AI に頼っている学生は合計で 44 名いた。

表-7 質問 10～質問 12 における全出身国者のアンケート結果

問 10	質問項目	あなたがいつも利用している生成 AI について聞きます。生成 AI を利用する際は、特に日本語のどの技能を補うために利用していますか。
	複数回答可	読解(36 件) 会話(25 件) ライティング(文章作成)(34 件) その他の技能を補う(33 件) 聴解(20 件)
問 11	質問項目	あなたは主にどのような目的で生成 AI を利用しますか。
	複数回答可	日本語の作文補助(31 件) 日本語の文法チェック(20 件) アイデア出し(13 件) 課題や作文、その他の提出物の作成(11 名) 翻訳(日本語⇄母国語)のため(39 件) 日本語の文章の要約(14 件) 日本語で書かれた文章の大意を掴むため(29 件) その他の作業で利用するため(29 件)
問 12	質問項目	先ほど、生成 AI を利用する主な目的について答えてもらいました。 その作業において、何%ぐらい生成 AI に頼っていますか。
		90～100% (※生成 AI に作業の大部分を頼っている) (4 名) 80～89%(7 名) 60～79%(16 名) 40～59%(17 名) 0～39% (※生成 AI にはほとんど頼っていない) (34 名)

(2) 「日本語で文章を生成することへの意欲や態度に関する質問(質問 13～質問 15)」に対する回答結果

下記の表 8「質問 13～質問 15 における全出身国者のアンケート結果」から、日本語で文章を生成することへの意欲や態度を問うている質問 13～質問 15 に対する回答結果に注目し、確認していく。

まず、日本語文生成の理想とギャップについて、回答結果を見ていく。関連する質問 13「日本語の文章を生成したいという理想があっても、あなたが日本語の難しさを感じている場面はどんな場面ですか。(複数ある場合は複数答えて下さい)」と言う質問に対して、「日本語の文章生成の場面(翻訳内容には書く場面と記載)」を選んだのが、複数回答の合計は 181 件で、そのうち 36 件であった。一方、会話場面を選択する学生を見ると、「それ以外の会話場面」を選択している学生も多く、合計 29 件もいた。次いで、先行研究で多かった「会話で断る場面(断るとき・断られるとき)」「会話で注意する場面(注意するとき・注意されるとき)」を選択している学生もそれぞれ 27 件ずついた。この会話で断る場面と注意する場面を選ぶ学生が多いという結果については、先行研究である辻ら(2016)のアンケート結果と類似している。次に、関連する質問 14「先ほど、日本語の文章

を生成したいという理想があっても、日本語の難しさを感じている場面について答えてもらいました。あなたは、日本語の文章を生成に意欲的な場面において、できるだけ自分の力で日本語の文章を生成したいと思いますか。」において、「自力で生成したい」と考える学生は全部で 67 名いた。これは全アンケート回答者の約 85.9% の割合で、「自力で生成したいと思わない」と答えた学生が合計 11 名で全アンケート回答者の約 14.1% であったことを考えると、かなり高い数値である。また、関連する質問 15「なぜ、そのような場面において、自力で生成したい(または生成したくない)と感じるのですか」と言う質問に対して、生成したくない理由に該当する「自信がなくて書きたくないから(5名)」「他人に書いてもらったほうが楽だから(2名)」「書きたいけど、難しいと感じるから(11名)」「時間や手間がかかると感じるから(6名)」と答えた学生が合計で 24 名いたが、それと比較して、生成したい理由に該当する「自分で表現力を高めたいから(38名)」、「書くことで上達したいから(12名)」「書きたくない理由が特にないから(1名)」と答えた学生が合計 52 名いた。つまり、自力で日本語を生成したいと感じる学生は生成したくない学生より多いということだ。一方、この質問の選択肢に「日本語を書くことに興味がある(または"ない")から」を選択している学生が 2 名いた。これは選択肢を見ただけでは「興味があるかどうか」を判断することが難しく、この選択肢は生成したい理由にも生成したくない理由にも含まないこととする。

表-8 質問 13～質問 15 における全出身国者のアンケート結果

問 13	質問項目	日本語の文章を生成しようという意欲があっても、あなたが日本語の難しさを感じている場面はどんな場面ですか。
	複数回答可	日本語での文章作成の場面(36件) 会話で断る場面(日本語で断るとき/断られるとき)(27件) 会話で注意する場面(日本語で注意するとき/注意されるとき)(27件) 会話で依頼する場面(日本語で依頼するとき/依頼されるとき)(19件) 会話で謝る場面(日本語で謝るとき/謝られるとき)(18件) それ以外の会話場面(29件) 会話で勧誘する場面(日本語で勧誘するとき/勧誘されるとき)(25件)
問 14	質問項目	先ほど、日本語の文章生成の意欲があっても、日本語の難しさを感じている場面について答えてもらいました。あなたは、日本語の文章生成に意欲的な場面において、できるだけ自分の力で日本語の文章を生成したいと思いますか。
		強くそう思う(26名) ある程度そう思う(42名) あまりそう思わない(1名) まったくそう思わない(9名)
問 15	質問項目	なぜそのような場面で、自力で生成したい(または生成したくない)と感じるのですか。
		自分の表現力を高めたいから(38名) 書くことで上達したいから(13名) 書きたいけれど、難しいと感じるから(11名) 時間や手間がかかると感じるから(6名) 自信がなくて書きたくないから(5名) 他人に書いてもらった方が楽だから(2名) 日本語を書くことに興味がある(または"ない")から(2名) 書きたくない理由が特にないから(1名)

(3) 「理想と使用の現実とのギャップを探るための対比質問(質問 16～質問 21)」に対する回答結果

下記の表 9「質問 16～質問 21 における全出身国者のアンケート結果」において、理想と使用の現実とのギャップを探るための対比質問となっている質問 16～質問 21 に対する回答結果に注目し、その内容を確認していく。

まず、関連する質問 16「あなたはこれまで生成 AI が出力した内容を、課題や作文、その他の提出物にコピーして提出したことはありますか。(母国の学校のときや日本の学校での経験を考えて教えてください)」において、提出物に生成 AI で出力して提出した経験があるのは、「いいえ一度もない」を除いた学生で、合計数は 53 名、全回答者の約 67.9% であった。また、「普段から使っているが特に意識して使っていない」人が合計 11 名

で、全回答者の 14.1%いた。これを選んだ学生は情報リテラシーが特に低いのではないだろうか。つぎに、関連する質問 17「生成 AI が出力した内容を、課題や作文、その他の提出物にコピーして提出したことについて、質問を続けます。課題等に生成 AI で出力した内容をコピーするとき、コピーした内容は出力した全内容の何%ぐらいに当たりますか。」において、生成 AI が出力した全内容の 40%以上をコピーしている学生は合計 40 名で、全回答者の約 51.3%にのぼった。また、関連する質問 18「先ほどの質問の続きです。生成 AI を使わなかった場合と比べて、生成 AI を使用することで作成した課題や作文、その他の提出物の出来映えは良くなったと感じますか。最も当てはまるものを 1 つだけお選びください。」において、生成 AI を使用することで、提出物の出来が良くなったと少しでも感じる学生が、合計 51 名、全回答者の約 65.4%であった。さらに、関連する質問 19「課題や作文、その他の提出物の作成に生成 AI を利用することは、あなたの文章力の向上に良い影響を与えますか。それとも、悪い影響を与えますか。最も当てはまるものを 1 つだけお選びください。」において、生成 AI は、文章力の向上に良い影響があると感じている学生は合計 41 名、全回答者の約 52.6%いた。さらに、関連する質問 20「課題や作文、その他の提出物の作成に生成 AI を利用することは、あなたの考える力の向上に良い影響を与えますか。それとも、悪い影響を及ぼすと思いますか。最も当てはまるものを 1 つだけお選びください。」において、学生自身の考える力の向上に良い影響があると感じている学生は、合計 45 名、全回答者の約 57.7%いた。自分の考える力の向上に生成 AI が好影響を与えていると感じている割合は過半数である。よって、学生自身の能力の向上に好影響を与えていると感じている割合が全回答者の過半数いることがわかった。最後に、関連する質問 21「あなたは生成 AI を利用した際、どのような行為が不正行為に当たるか、自分自身で判断できますか。」において、判断があいまいな学生は合計 37 名、全回答者の約 47.4%であった。一方、判断できると考えている学生は合計 41 名で、全回答者の約 52.6%である。

上記の質問 16～質問 18 までの結果から、「提出物における生成 AI の利用に関する意識」について見ていく。「提出物に生成 AI で出力して提出した経験がある」のは全回答者の約 67.9%であったが、提出経験がある学生のほとんどに当たる、アンケート全回答者の約 65.4%の学生が、提出物の出来が良くなったと評価している。そして、アンケートに答えた 78 名中 40 名の学生、全回答者の約 51.3%が、生成 AI が出力した 4 割以上の内容をそのまま提出物にコピーして使っていると回答しているということがわかった。また、上記のようなアンケート結果の現状は、先行研究である仙台大学 AI 教育研究チーム(2024)や大森(2024)のアンケート結果と類似していることがわかった。

表-9 質問 16～質問 18 における全出身国者のアンケート結果

問 16	質問項目	あなたはこれまで生成 AI が出力した内容を、課題や作文、その他の提出物にコピーして提出したことはありますか。(母国の学校のときや日本の学校での経験を考慮してください)
		はい、何度もある(11名) はい、一度だけある(7名) いいえ、一度もない(27名) したことはあるが頻度は少ない(22名) 普段から使っているが特に意識して使ったことがない(11名)
問 17	質問項目	生成 AI が出力した内容を、課題や作文、その他の提出物にコピーして提出したことについて、質問を続けます。課題等に生成 AI で出力した内容をコピーするとき、コピーした内容は出力した全内容の何%ぐらいに当たりますか。
		100%(2名) 80～99%(11名) 60～79%(14名) 40～59%(13名) 0～39%(38名)
問 18	質問項目	先ほどの質問の続きです。生成 AI を使わなかった場合と比べて、生成 AI を使用することで作成した課題や作文、その他の提出物の出来映えは良くなったと感じますか。
		とても良くなったと感じる(12名) やや良くなったと感じる(39名) 変わらないと感じる(7名) あまり良くなったと感じない(2名) 全く良くなったと感じない(3名) 生成 AI が出力した内容をコピーしたことがない(15名)

表-10 質問 19～質問 21 における全出身国者のアンケート結果

問 19	質問 項目	課題や作文、その他の提出物の作成に生成 AI を利用することは、あなたの文章力の向上に良い影響を与えますか。それとも、悪い影響を与えますか。
	とても良い影響を与えと思う(18名) やや良い影響を与えと思う(21名) やや悪い影響を与えと思う(10名) 何も影響を与えないと思う/全く影響を与えないと思う(9名) 影響のことはわからない/判断できない(18名)	
問 20	質問 項目	課題や作文、その他の提出物の作成に生成 AI を利用することは、あなたの考える力の向上に良い影響を与えますか。それとも、悪い影響を及ぼすと思いますか。
	とても良い影響を与えと思う(16名) やや良い影響を与えと思う(29名) 何も影響はないと思う/影響はないと思う(11名) やや悪い影響を与えと思う(11名) 全く悪い影響を与えないと思う(11名)	
問 21	質問 項目	あなたは生成 AI を利用した際、どのような行為が不正行為に当たるか、自分自身で判断できますか。
	はい、判断できる(36名) いいえ、判断できない(4名) 判断できるが、自信がない(5名) 状況によって判断が変わる(19名) 判断できるかわからない(14名)	

(4) 「日常的な学習において AI を使用する理由と、日本語の文章生成に対する理想との間にあるギャップを探るための質問(質問 22～質問 26)」に対する回答結果

下記の表 11「質問 22～質問 24 における全出身国者のアンケート結果」と表 12「質問 25～質問 26 における全出身国者のアンケート結果」において、日常的な学習において AI を使用する理由と、日本語の文章生成に対する理想との間に存在するギャップを探るための質問となっている質問 22～質問 26 に対する回答結果に注目し、その内容を確認していく。

まず、関連する質問 22「あなたは、日常的な学習（課題や作文、その他の提出物の作成は含まない）のために生成 AI を利用したことがありますか。」において、日常的な学習のために AI を使っている学生は頻度に関係なく、合計 65 名で全回答者の 83.3%いた。つぎに、関連する質問 23「日常生活での学習において、生成 AI を利用することは、知識を増やしたり、学びを深めたりするうえで良いことだと思いますか。それとも、悪いことだと思いますか。」において、日常的な学習のために AI を使うことは、日本語を学ぶ上で良いことだと思っている学生が、合計で 57 名、全回答者の約 73.1%いた。これは、課題や作文、その他の提出物作成のために使い、自分自身の能力の向上に好影響を与えていると答えた学生(全回答者の過半数)よりも多い。また、関連する質問 24「日常生活での学習において、自分の日本語能力を高めるために、日本語の文章を自力で生成することは重要だと思いますか。」に対する回答結果をみると、日常生活において、自力での生成が重要だと言う意見は、合計 65 名いて、全回答者の約 83.3%いた。そして、関連する質問 26「日常生活での学習において、日本語の文章を自力で生成したいと思っても、生成 AI を使ってしまうことがありますか。」に対する回答結果をみると、日常生活において、自力で生成することの重要性を感じている学生は合計 47 名、全回答者の約 60.3%であった。

上記の結果から、「日常生活における生成 AI の利用に関する意識」について見ていく。日常生活において自力で日本語を生成したい気持ちがあるが、実際は生成 AI に頼っているという矛盾した気持ちに時々でもなる学生が 47 名、全回答者の約 60.3%いることがわかった。また、生成 AI の利用に肯定的な学生のうち、提出物の作成のために使っている学生は全回答者の約 52.6%であったが、日常的な学習のために使っている学生は 65 名と、全回答者の約 83.3%だった。これにより、提出物の作成において、肯定的な学生よりも日常的な学習において肯定的な学生のほうが多いということがわかった。

表-11 質問 22～質問 24 における全出身国者のアンケート結果

問 22	質問項目	あなたは、日常的な学習（課題や作文、その他の提出物の作成は含まない）のために生成 AI を利用したことがありますか。
		はい、頻繁に使っている(13名) はい、時々使っている(25名) いいえ、使ったことはない(13名) 使ったことあるがあまり頻繁ではない(17名) 普段から使っているが意識して使ったことはない(10名)
問 23	質問項目	日常生活での学習において、生成 AI を利用することは、知識を増やしたり、学びを深めたりするうえで良いことだと思いますか。それとも、悪いことだと思いますか。
		とても良いことだと思う(20名) やや良いことだと思う(37名) どちらとも言えない(10名) やや悪いことだと思う(5名) 全く良くないことだと思う(6名)
問 24	質問項目	日常生活での学習において、自分の日本語能力を高めるために、日本語の文章を自力で生成することは重要だと思いますか。
		とても重要(36名) ある程度重要(29名) 全く重要ではない(7名) あまり重要ではない(6名)

表-12 質問 25～質問 26 における全出身国者のアンケート結果

問 25	質問項目	日常生活での学習において、生成 AI を使うとき、どのような気持ちになりますか。
	複数回答可	効率的だと思う(36件) 不安を感じる(11件) 罪悪感を感じる(10件) 特に問題ないと思う(19件) その他(17件)
問 26	質問項目	日常生活での学習において、日本語の文章を自力で生成したいと思っていても、生成 AI を使ってしまうことがありますか。
		時々ある(36名) よくある(11名) ほとんどない(17名) 全くない(14名)

(5) 「学生にとって必要な支援とは何かを知るための質問(質問 27～質問 29)」に対する回答結果

表 13 「質問 27～質問 29 における全出身国者のアンケート結果」において、学生にとって必要な支援とは何かを知るための質問となっている質問 27～質問 29 に対する回答結果に注目し、その内容を確認していく。

まず、関連する質問 27『あなたが「自分で文章を書きたい」と思うとき、周りからどのようなサポートがあればやる気が出ますか(複数ある場合は複数答えて下さい)』に対する回答結果をみると、選択肢の「周りからの具体的なアドバイスやフィードバック(34件)」「文章を書くことの価値や意義についての説明や励まし(17件)」を選択している学生は、アドバイスなどの口頭でのサポートを求めていると推察される。一方、選択肢の「小さな成功体験を積める課題や練習(37件)」「友達や先生と一緒に取り組める環境やグループ活動(24件)」「報酬(お金以外のもの)や誉め言葉、サポートを通じて達成感を感じられる仕組み(8件)」を選択している学生は、具体的な体験や実践によるサポートを求めていると推察される。この「口頭でのサポート」を求めている学生は、複数回答の合計は 181 件で、そのうち 51 件であった。そして、もう一方の「具体的な体験や実践によるサポート」を求めている回答件数は合計 69 件であった。また、そのほかの選択肢として「書き方の例やテンプレートの提供(26件)」、「的確な表現を生成 AI で上手く導き出すための方法の提供(15件)」、「特に周りからのサポートは必要ではない(15件)」「サポートが受けられる適切な時間や場所(相談や指導を受ける場)の確保(15件)」を選んだ学生もいたが、これら 3 つの選択肢は、上記 2 つのサポートの形には当てはまらなると考えられる。この質問 27 の結果から、学生たちは「具体的な体験や実践によるサポート」を「口頭でのサポート」よりも求めているということがわかった。また、具体的な体験や実践によるサポートを、学生はより強く求めているが、口頭でのサポートと重複して求めている学生が 51 名いた。さらに、具体的な体験や実践によるサポートと口頭でのサポートと重複して求めている学生の回答数は 181 件のうち 120 件で、全回答数の約 66.3% であった。つぎに、関連する質問 28 「あなたはそのサポートをすぐにでも必要だと感じていますか。」に対する

回答結果を見てみると、選択肢の「すぐにもサポートが必要だと感じている(20名)」や「かなり早い段階でサポートが必要だと感じている(18名)」を選ぶ学生が多く、「早めにサポートが必要だと感じている」学生は合計 38 名、全回答者の約 48.7%であった。また、上記の 2つの選択肢に加え、「あまり緊急性はないが必要だと感じている(15名)」「特に緊急性はないがサポートがあれば受けたいと感じている(12名)」といった選択肢を選んだ学生が合計 65 名、全回答者の約 83.3%いた。これらの選択肢を選んだ全回答者の約 83.3%の学生は、何らかのサポートが必要であることが示唆される。最後に、関連する質問 29「サポートはどのくらいの頻度で必要だと思いますか。」に対する回答結果を見てみると、「月に数回」以上という、かなりの頻度でサポートがほしいと感じている学生が合計 50 名、全回答者の約 64.1%いた。これは全回答者の約 64.1%の学生が月に数回以上という高頻度でサポートを求めていると言える。

表-13 質問 27～質問 29 における全出身国者のアンケート結果

問 27	質問項目	あなたが「自分で文章を書きたい」と思う時、周りからどのようなサポートがあればやる気が出ますか
	複数回答可	周りからの具体的なアドバイスやフィードバック(34件) 小さな成功体験を積める課題や練習(37件) 友達や先生と一緒に取り組める環境やグループ活動(24件) 文章を書くことの価値や意義についての説明や励まし(17件) 的確な表現を生成 AI で上手く導き出すための方法の提供(15件) サポートが受けられる適切な時間や場所(相談や指導を受ける場)の確保(15件) 特に周りからのサポートは必要ではない(15件) 報酬(お金以外のもの)や褒め言葉、サポートを通じて達成感を感じられる仕組み(8件)
問 28	質問項目	あなたはそのサポートをすぐにも必要だと感じていますか。
		すぐにもサポートが必要だと感じている(20名) かなり早い段階でサポートが必要だと感じている(18名) あまり緊急性はないが、必要だと感じている(15名) サポートがなくても、特に問題はない(13名) 特に緊急性はないが、サポートがあれば受けたいと感じている(12名)
問 29	質問項目	サポートはどのくらいの頻度で必要だと思いますか。
		週に数回(24名) 月に数回(19名) 特に必要ない(15名) 月に 1回(11名) 毎日(7名) 半年に数回(1名) 半年に 1回(1名)

5. 考察

先ほど、一定の質問項目群ごとにアンケート結果を分類した。それらの結果をもとに、考察を行っていく。

まず、「3. アンケートの結果について」の(1)「生成 AI の使用状況に関する質問」の項目について考察していく。質問 6「生成 AI を利用したことがあるか」に「いいえ」と答えたとうえで、質問 8「主に利用している生成 AI はどれか」に「その他の生成 AI」と答えた学生が 11 名いたと記載したが、この 11 名だけは本当に利用したことがないという可能性も考えられる。ただ、この可能性がそれ以外の質問項目の結果にどの程度影響を与えているのかは不明である。今後同様のアンケート調査を実施する際の課題である

次に、「3. アンケートの結果について」の(2)「日本語で文章を生成することへの理想や態度に関する質問」項目について考察していく。質問 11 において、生成 AI を「日本語の作文の補助」で使っていると回答した件数が合計 31 件であったが、質問 13 で「日本語での文章作成の場面」を選んだ件数と同程度の回答数(36 件)であるため、日本語の文章を記述することへの苦手意識が顕著に出ているのではないだろうか。また、「日本語の文章生成に意欲的な場面において、できるだけ自分の力で日本語の文章を生成したいと思いますか。」と言う質問に対して、「強くそう思う」「ある程度そう思う」が 68 名で、全回答者の約 87.2%にのぼるという結果から、

自力での日本語の文章生成について、一部の学生は不可能だと感じ、あきらめていると解釈できる。

続いて、「3. アンケートの結果について」の(3)「理想と使用現実とのギャップを探るための対比質問」項目及び(4)「日常的な学習において AI を使用する理由と、日本語の文章生成に対する理想との間にあるギャップを探るための質問」項目について考察していく。「提出物に生成 AI で出力して提出した経験がある」(約 67.9%)であったが、提出経験がある学生の割合と同程度(約 65.4%)が、出来が良くなったと評価している。そして、アンケートに答えた 78 名中 40 名の学生、全回答者の約 51.3%が、生成 AI が出力した 4 割以上の内容をそのまま提出物にコピーして使っていると回答しているというのが、大阪観光大学別科の留学生の現状である。

また、「生成 AI を利用した際、どのような行為が不正行為に当たるか、自分自身で判断できるか。」という質問において、判断があいまいな学生が 47.4%と、全回答者の半数弱いた。さらに、「課題や作文、その他の提出物の作成に生成 AI を利用することは、あなたの考える力の向上に良い影響を与えるかどうか」という質問に、学生自身の考える力の向上に良い影響があると感じている学生は、全回答者の 57.7%いた。しかし、日常的な学習のために AI を使うことは日本語を学ぶ上で良いことだと思っている学生のほうが、全回答者の 73.1%と多かった。これらの結果から、日常学習や提出物の作成のために生成 AI を使っている学生が非常に多く、学習支援ツールとして定着していることがよくわかったが、学生の倫理的な理解には課題が残る。

しかし、日常的な学習のために AI を使うことは日本語を学ぶ上で良いことだと思っている学生が多い一方、自力で日本語を生成したい気持ちがあるが、実際は生成 AI に頼っているという矛盾した気持ちに時々でもなる学生が全回答者の約 60.3%いた。生成 AI の利用状況と AI に頼っているという事実と矛盾を感じている学生が多いことが結果で表れており、これは大阪観光大学別科独自の結果である。また本研究では、学校の課題等の提出物作成において生成 AI の使用による矛盾を感じているかどうかを調査していないが、その理由は、学校の課題や提出物の場合、学校の授業規則に含まれていて、別科では普段から生成 AI の利用において教員が指導をしているという現状があるため、提出物への生成 AI の使用は悪いものだという意識があり、矛盾が起きにくいと考えたからである。

さらに、「3. アンケートの結果について」の(5)「学生にとって必要な支援とは何かを知るための質問」項目について考察していく。質問 27 に対する回答結果において、選択肢によって学生が求めているものを、主に「アドバイスなどの口頭でのサポート」と「具体的な体験や実践によるサポート」の 2 つのサポートタイプに分けた。このサポートタイプに当てはまらない「サポートが受けられる適切な時間や場所(相談や指導を受ける場)の確保」を選択した件数が 15 件だった。これは、別科の学生たちがアルバイトや普段の忙しい留学生活のために、サポートを受けたいと思っても時間が確保できず、どうすればサポートを受けられるのかが分からずに悩んでいる、『サポート難民』のような状態にあるのではないかと推察される。そのような時間学生たちに対して時間や場所を確保できるように、学校が学習環境を整えることは難しいことだと思われるが、日本語教育機関として今後の課題のひとつかもしれない。

また、具体的な体験や実践によるサポートと口頭でのサポートと重複して求めている学生の回答数は 181 件のうち 120 件で、全回答数の約 66.3%であった。さらに、早急にサポートを求めている学生だけでなく、緊急性はなくてもサポートを求めているといった学生を含めた場合、全回答者の約 83.3%いたことを考えると、大阪観光大学別科として、様々な角度からできるだけ早期のサポート体制の構築が必要だと言うことが伺える。

6. おわりに

先行研究では、生成 AI を使用する際、学生たちがどのような行為を不正行為と認識しているのかについて理解が不十分であることや、適切な引用方法に関する知識が十分ではないことが報告されている。一方で、生成 AI は自身の思考力等の向上に役立つものとして、極めて肯定的に評価していることも示されていた。

また、留学生がコミュニケーションにおいて摩擦を起こしやすい場面については、能動的場面と受動的場面を問わず、様々な場面で困難を感じている可能性があることが報告されている。今後、生成 AI の利用が一層広がって

いくと考えられている。

本研究においても、本大学の別科生が生成 AI を使用する際、おそらくこれらの先行研究と一致する結果が得られると予測していた。具体的には、日本語を話す意欲があっても、心理的な摩擦を感じやすい場面を問う質問 13 において、対面での会話場面のほうが心理的な摩擦を感じやすいという可能性があるため、「日本語での文章作成の場面」を選択する学生は、各会話場面よりも少なくなると想定していた。また、質問 26「日本語の文章を自力で生成したいと思っていても、生成 AI を使ってしまうことがありますか。」という問いにおいては、生成 AI に肯定的な意見が多いことから、「よくある」と回答する人が多くなるだろうと予測していた。

しかし、実際のアンケート調査の結果を見ると、質問 13 では「日本語での文章作成の場面」を選択した学生が最も多いと言う結果が得られた。また、「日本語を生成すること」に対する意欲を高めるために必要なサポートについては、「具体的な体験や実践によるサポート」を求める学生が、アドバイスなどの口頭でのサポートを求める学生よりも多く、多くの学生がかなり高頻度での支援を必要としていることが明らかになった。

一方、質問 26 では、「よくある」と回答した学生よりも、「時々ある」「ほとんどない」「全くない」と回答した学生の方が多かった。

これらの結果から、生成 AI に頼ること自体に肯定的な意見を持ちながらも、生成 AI に依存している現状を認めたくない、或いは現状に満足したくないと言う、学生の矛盾した心理がうかがえる意外な結果となった。また、日本語での会話内容の生成よりも、日本語の文章作成の場合において日本語の難しさを感じていることが明らかになった。さらに、具体的な体験や実践によるサポートと口頭でのサポートの両方を求めている学生が 8 割を超えていることから、生成 AI が普及している現代においても、語学教育における人的支援の重要性が依然として高いと言う結論が得られた。

一方、本研究の課題としては、調査対象者の人数が少なかったため、学生の母語による生成 AI 使用に関する意識の差の傾向を正確に導き出すにはデータ数が乏しく、偏りがある。また、データ数が乏しいため、日本語学習歴が浅い学生ほど生成 AI に頼るのかということをも裏付ける結果を導き出せなかった。さらに、生成 AI を使ったことがある学生で制作物にコピーしたものを出したことがない学生はいないのではないかと推察される。そのため、普段から利用していて制作物にコピーしたことがないと答えている学生は無意識にコピーしている可能性があるが、それを裏付ける結果を導き出せなかった。これらの件については、今後の研究に生かしていきたい。

今回のアンケート結果を基に、今後の当別科における日本語での文章生成能力を向上させるためのサポート体制の構築を図っていきたいと考えている。

【謝辞】

本論文の作成にあたり、中国語訳を監修して下さった大阪観光大学別科の孟昭輝さんに多大な協力を頂きました。ここに感謝の意を表します。

【引用・参考文献】

- 仙台大学 AI 教育研究チーム(2024)「仙台大学、学生と教員を対象とした生成 AI の教育利用状況と意識に関する全国調査の報告書作成」ICT 教育ニュース、<https://ict-enews.net/2024/07/19sendaidaigaku/>、2025 年 11 月 15 日
- 大森不二雄 (2024)「生成 AI の積極的活用で、思考力・文章力の育成を～大学生の ChatGPT 利用実態に基づく提案～」『教育学術新聞』第 2967、pp.2-2
- 辻 周吾・影浦 亮平・石井 香織・安達 万里江 (2016)「留学生のコミュニケーションにかかわる諸問題」『国際言語文化学会 日本学研究』1 巻、pp.1-12